

研究タイトル:

和歌と日本古典文学に関する研究

氏名: 渡邊 健 / WATANABE Ken

E-mail: watanabe@yonago-k.ac.jp

職名: 教授

学位: 博士(文学)

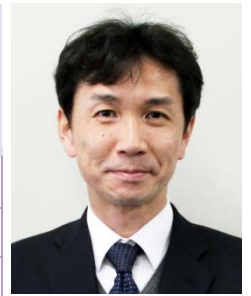
所属学会・協会: 和歌文学会, 中世文学会, 中古文学会

キーワード: 和歌, 後鳥羽院, 新古今和歌集, 鳥取の国学と和歌

技術相談

提供可能技術:

- ・和歌・物語・日記文学に関すること。講演や講座の依頼にも応じます。
(現在、米子市立図書館で講座「講座「百人一首を読み解く〜藤原道長の時代の歌人を中心に〜」を担当しています。)
- ・国語教育、特に古典教育に関すること。短歌の創作・鑑賞に関すること。



研究内容: 和歌と日本古典文学の研究

日本文学史と和歌

私は主に平安・鎌倉時代の和歌を中心に研究しており、特に後鳥羽院と『新古今和歌集』の時代の和歌の表現のあり方を分析・調査するところから、なぜ和歌のような短詩形文学が日本の文学伝統の主軸であり続けてきたのかを考察してきました。和歌は日本にまだ文字がなかった時代に発生し、時代による盛衰はあるものの、現代の短歌にまで命脈を保ち続けている息の長い文芸です。『百人一首』を代表とする秀歌選の歴史や、『時代不同歌合絵』のような和歌と絵画との関わり、卷子本・写本・版本・短冊・掛軸等といった資料形態も考慮しながら、和歌について通時的に幅広く研究しています。

図1 『女百人一首』(架蔵) 紫式部



鳥取の国学と和歌

江戸時代後期、鳥取では国学と和歌が盛んになり、幕末頃には米子や境港からも歌人が輩出しました。境港出身の門脇重綾、米子・勝田神社の佐々木喜蔭、重綾と親交のあった飯田年平や小谷古蔭といった歌人も米子に関わりがありました。彼らの和歌について、地元に残る資料調査もしながら研究を進めています。



図2 (2016年8月)
門脇家資料調査



図3 (一部、門脇家蔵)
門脇重綾の遺品

担当科目

言語文化, 実用日本語

過去の実績

- ・境港歴史楽会編『門脇重綾遺稿歌集『蟻園集』一翻刻一』(依頼による監修・執筆)
- ・研究発表「幕末の米子歌壇と類題和歌集―鹿島長行の『類題採風集』二篇への投稿をめぐって―」
(日本文学協会第42回研究発表大会 於 二松学舎大学 2023年7月9日)

近年の業績

(研究・教育論文、特許含む)

- ・学術論文: 渡邊健「『時代不同歌合』と後鳥羽院の自讃歌」、国語と国文学、第98巻 第11号、pp48-62、2021年11月
- ・研究ノート: 渡邊健「鹿島長行の和歌詠草四種について」、山陰研究、第14号、pp187-204、2021年12月
- ・学術論文: 渡邊健「『時代不同歌合』の具平親王と後鳥羽院の番いについて―歌人の選定と作品の構想―」、岡大國文論稿、第50号、pp60-71、2022年3月